



# YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2014年8月号

## 歴史認識という言葉を知っていますか？

みなさんは歴史認識という言葉をご存知でしょうか？私がこの言葉を意識したのは、3・11の震災からです。この時、改めて日本の良さがクローズアップされましたが、それまでの報道はどちらかというと「日本は悪い国だ」というイメージが強いものでした。

私はわずか3年半ではあります。自衛隊員として国家公務員という身分を経験していましたが、そんな私でさえ、自分の国である日本に対しマイナスのイメージしか持っていないませんでした。唯一持っていたのは工業技術力というものだけでした。歴史に興味のある方は私以上にご存知の方もおいでだとは思いますが、これからの若い世代のみなさんにはぜひ知っておいて欲しい情報だと思ひ掲載させていただきました。このような情報は得てして忌み嫌われる情報だと知りつつ敢えて掲載させていただきま

す。今、従軍慰安婦の問題が新聞紙上を賑わせています。また、村山談話というものに対してもいろいろと議論をなされているところです。私は、今までこれらを信じていたわけですが、最近、このようなことについてもっと良く知らねばと反省させられる日々が続いています。

戦後の日本は、敗戦国ということ。非常に不利益な条件を戦勝国であるアメリカより押し付けられることになりました。このことは負けたのだからある程度仕方のないことではあります。しかし、第2次大戦における日本の強さをアメリカが恐れるあまり、その後日本が強い国にならないように徹底的に社会システムの変更を強いるのです。公職追放をはじめ、焚書(ふんじょ)というそれまでの強い日本を築いてきた人や書籍類を一掃したのです。教育勅語等は今改めて読むと「親孝行は大切」等本当に当たりまえのことしか書いていないにも関わらず、一掃されてしまったのです。

私もまだ勉強中なので、今がすべっておかしいと言っているわけではなく、もう少し我々大人が歴史を勉強して、これからの子ども達をそして日本をより良い方向に導かないといけないと感じています。

私は、自衛隊に勤務していた時に遠洋航海を経験したのですが、外国人の愛国心の強さに圧倒された記憶があります。このようなことがなぜ起きているのか？その意味が最近になってなんとなくわかってきたような感じがします。

私たちがこれから生きていく上で一番大切なことは自分を信じることです。そのためには親を信じ、祖先を信じ、そして祖国を信じる。と、そして誇りに思うことがとても大切だと感じています。

私も歴史の勉強を通じて、日本人で良かったと思うと同時に、親や先祖に対する感謝の気持ちが強くなってきています。私もまだまだ勉強不足ですが、学んだことは情報発信していきたいと考えていますので、このようなことに詳しい方は是非ご指導いただくと嬉しいです。

# やる気相談室

## 性格

### 性格って変えられるものなのでしょうか？

性格って何でし

ようか？性格っていろいろあるなあとは思いますが改めて性格って何？と言われると困ってしまいます。

以前、書籍紹介コーナーで心屋仁

之助氏の本を紹介させていただいたのですが、その本にはこんなことが書いてありました。「性格とは反応であり反応の習慣のことである」と・・・

ですから反応の習慣が変わった時に性格が変わったように見えるのです。(もともとの性質は変わっていないのかもしれませんが)

お盆休みに久しぶりに中学

生の時の同窓会に行ってきた。その時に本当に久々に

合った友人がいました。彼は小学校4年の時に家が火事になり当時2年生だった妹を亡くしてしまいました。聞くところによると彼は窓から先に飛び降り妹が飛び降りるのを待っていたそうです。しかし、

小学校2年生の妹は飛び降りることが出来なかったのだそうです。今だからそのような話が出来たのかもしれませんが、それ以降、彼は周りの我々から見てもわかるくらい性格が変わってしまいました。

このような経験をすると誰しもが性格が変わってしまうのでしょうか、多かれ少なかれ我々はいろんな出来事の中で今の行動パターン(反応の

習慣(性格)が形成されていきます。

ただ、我々が知っておかなければならないのは、あくまでも性格とは反応の習慣なので、習慣が変われば性格も変わってくるものだという事です。ちなみに徐々に同級生と会うと全く変わっていない人もいれば見違えるように変わっている人もいました。変わった人を見て、いろいろな経験をj経ていろいろな習慣を身につけたのだなああと感心するとともに、これからも良い習慣を身につけてみなさん

のお役にたてるよう頑張ろうという意欲が湧いてきました。

誘ってくれた同級生のみんなに感謝です。

### 書籍紹介コーナー 英国人記者が見た連合軍戦勝史観の虚妄

この本は記事中にも書いた歴史認識を考えるうえで、多くの人に読んでほしい1冊です。この本はイギリス人の記者が書いた本です。日本人は、太平洋戦争で戦った相手というまざアメリカを思い浮かべるが、実はイギリスがこの戦争をきっかけに失ったものは実に膨大だったのです。著者が子供の頃に地球儀を使って説明されたという栄光の大英帝国の基盤の要はアジアの植民地でしたが、日本の快進撃とともにその数百年の支配が一気に崩れたのです。ですから当然日本という国はとんでもない国、残酷な国だという先入観を持っていたのです。そのような著者が仕事を通じて日本の素晴らしさと今の日本人の歴史認識のギャップについて書いた本なのです。著者は欧米を代表する一流紙の記者であったため、たくさんの有名人に会っていて、その思い出話を披露していることも非常に興味深い内容でした。特に著者の親交が深かった三島由紀夫については感動したので、生まれて初めてこのお盆に三島由紀夫の小説を読むことが出来たほどです。

